

平成24年度 第2回日本粘土学会常務委員会議事録

日 時：平成24年1月28日(土) 13:00-15:00
場 所：早稲田大学理工学キャンパス51号館3階
第5会議室

出席者(順不同, 敬称略)

井上, 山田, 八田, 會澤, 小川, 河野, 篠原,
高木, 田村, 日比野, 宮脇, 山崎, 土信田,
地下(記)

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況(篠原)：第50巻1・2号の発行状況ならびに第50巻3号の発行予定に関して報告された(別紙)。
- (2) Clay Scienceの発行・編集状況(八田(代理))：Vol.15 No.1～4の発行状況ならびにAsian Clayについての編集状況を含め、今後の発行予定について報告がなされた(別紙)。山田副会長よりAsian Clayの今後の編集に関しては、上原編集委員長に一任されることが話され、井上会長より、Vol.16 No.1からは海外編集委員の方の氏名記載が依頼確認された。
- (3) 会計(土信田)：平成24年度会計中間収支状況(別紙)の報告がなされた。
- (4) 行事 第55回粘土科学討論会の決算報告(河野)：第55回粘土科学討論会の決算報告(別紙)がなされた。
- (5) 国際協力(山田)：第2回Asian Clayの開催(2012年9月6日～8日 ソウル梨花女子大学)に関して、進行状況の報告がなされた。
- (6) 企画
 - ①標準粘土(宮脇)：標準粘土の依頼状況について報告がなされた。
 - ②シンポジウム(田村)：シンポジウムの原稿に関して状況報告がなされた。
 - ③ホームページ(八田(代理))：受賞報告などのホームページアップ状況について報告がなされた。
- (7) 庶務 会員動向(土信田)：会員の動向に関して報告があった(別紙)。
- (8) 連合等(山崎)：公益法人化に関して状況報告、日本地球惑星科学連合大会の案内がなされた。
- (9) 事務局(土信田)：共催・協賛について報告があった(別紙)。
- (10) その他
 - ①平成25・26年役員候補者推薦委員会・H25・26年選挙管理委員会委員・立会人に関して(八田)：委員会メンバー(別紙)が報告された。
 - ②山岸元会長のCMSの受賞に関して(井上)：山岸元会長の受賞(「Marilyn and Sturges W. Bailey Distinguished Member Award」)に関して粘土科学や学会ホームページにて記事を掲載することが報

告された。

2. 審議事項

- (1) 第2回Asian Clay(第56回粘土科学討論会)について 山田副会長より進行状況(シンポジウム・セッション案)が説明された。各セッションのチェアに関しては、韓国・日本から各1名を選出することが提案されていることに関して、学会としてどのように把握するか、また巡検などについて審議された結果、個人的に依頼があった場合には会員各自が対応し、最終的なチェア案については佐藤・小川委員が韓国側と連絡し確認すること、巡検については八田常務委員長が日本側の窓口となって進めていくこととした。
- (2) 第2回Asian Clayにおける学術振興基金からの基金賞について 八田常務委員長より援助案(別紙)に関して説明され、案に関して審議された結果、以下のことが決定した。
 - ・報告に関して、採択者が発表するセッション発表を1つ以上レビューし、報告文として提出することとする。
 - ・募集期間は、アブストラクトが締め切った後から2週間くらいとする。
- (3) 学会賞等運営内規の一部修正について 井上会長より学会賞運営内規についての修正案(別紙)が説明され、別紙のとおり変更として承認された。
- (4) 選挙の候補者推薦依頼、候補者名簿作成、投票用紙の配布時期について 八田常務委員長より説明がなされ、被選挙者名簿と役員推薦公募、学会賞の募集、振興基金の募集を掲載することならびに、名簿を別途作成配布しないかぎりには、候補者名簿に関しては今後委員会で審議することなく、作成配布することとなった。
- (5) 新規研究グループ「放射性物質-粘土相互作用研究グループ」の設立について 山田副会長よりグループについて説明がなされ、承認された。
- (6) その他
 - ・井上会長より今後の予算運営の問題に関して色々な案を出し検討中である事が説明され、今後審議していくこととなった。

平成24年度 第2回日本粘土学会評議員会議事録

日 時：平成24年1月28日(土) 15:00～
場 所：早稲田大学理工学キャンパス51号館3階
第5会議室

出席者(順不同, 敬称略)

井上, 山田, 八田, 會澤, 伊藤, 上原, 太田,
河野, 篠原, 鈴木(憲), 高木, 田村, 西浜,
日比野, 福土, 宮脇, 山崎, 横山, 土信田,
地下(記)

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況（篠原）：第50巻1・2号の発行状況ならびに第50巻3号の発行予定に関して報告された（別紙）。
- (2) Clay Science の発行・編集状況（八田（代理））：Vol.15 No.1～4の発行状況ならびに Asian Clay についての編集状況を含め、今後の発行予定について報告がなされた（別紙）。山田副会長より Asian Clay の今後の編集に関しては、上原編集委員長に一任されることが話され、井上会長より、Vol.16 No.1からは海外編集委員の方の氏名記載が依頼確認され、更に編集に関わってくれる方の推薦依頼があった。
- (3) 会計（土信田）：平成24年度会計中間収支状況（別紙）の報告がなされた。
- (4) 行事 第55回粘土科学討論会の決算報告（河野）：第55回粘土科学討論会の決算報告（別紙）がなされた。
- (5) 国際協力（山田）：第2回 Asian Clay の開催（2012年9月6日～8日 ソウル梨花女子大学）に関して、進行状況の報告がなされた。
- (6) 企画
 - ①標準粘土（宮脇）：標準粘土の依頼状況について報告がなされた。
 - ②シンポジウム（田村）：シンポジウムの原稿に関して状況報告がなされた。
 - ③ホームページ（八田（代理））：受賞報告などのホームページアップ状況について報告がなされた。
- (7) 庶務 会員動向（土信田）：会員の動向に関して報告があった（別紙）。
- (8) 連合等（山崎）：公益法人化に関して状況報告、日本地球惑星科学連合大会の案内がなされた。
- (9) 事務局（土信田）：共催・協賛について報告があった（別紙）。
- (10) その他
 - ①平成25・26年役員候補者推薦委員会・H25・26年選挙管理委員会委員・立会人に関して（井上）：委員会メンバー（別紙）が報告された。
 - ②山岸元会長のCMSの受賞に関して（井上）：山岸元会長の受賞（「Marilyn and Sturges W. Bailey Distinguished Member Award」）に関して粘土科学やホームページにて記事を掲載することが報告された。

2. 審議事項

- (1) 第2回 Asian Clay（第56回粘土科学討論会）について 山田副会長より進行状況（シンポジウム・セッション案）が説明された。各セッションのチェアに関しては、韓国・日本から各1名を選出することが提案されていることに関して、学会としてどのように把握するか、また巡検などについて審議され

た結果、個人的に依頼があった場合には会員各自が対応し、最終的なチェア案については佐藤・小川委員が韓国側と連絡し確認すること、巡検については八田常務委員長が日本側の窓口となって進めていくこととした。

- (2) 第2回 Asian Clay における学術振興基金からの基金賞について 八田常務委員長より援助案（別紙）に関して説明され、案に関して審議された結果、以下のことが決定した。
 - ・報告に関して、採択者が発表するセッション発表を1つ以上レビューし、報告文として提出することとする。
 - ・募集期間は、アブストラクトが締め切った後から2週間くらいとする。
 - ・募集案内として粘土科学第50巻3号に掲載する。ただし、通常の振興基金とは別になるように明記して案内を出す。
- (3) 学会賞等運営内規の一部修正について 井上会長より学会賞運営内規についての修正案（別紙）が説明され、選考件数などについて審議された結果、別紙のとおり変更することで承認された。
- (4) 選挙の候補者推薦依頼、候補者名簿作成、投票用紙の配布時期について 八田常務委員長より説明がなされ、被選挙者名簿と役員推薦公募、学会賞の募集、振興基金の募集を掲載することならびに、名簿を別途作成配布しないかぎりには、候補者名簿に関しては今後委員会で審議することなく、作成配布することとなった。
- (5) 新規研究グループ「放射性物質-粘土相互作用研究グループ」の設立について 山田副会長よりグループについて説明がなされ、承認された。
- (6) その他
 - ・井上会長より今後の予算運営の問題に関して色々な案を出し検討中である事が説明され、今後審議していくこととなった。
 - ・八田常務委員長より法人化について継続検討している旨が説明され、引き続き検討することとなった。
 - ・篠原編集委員長より粘土科学討論会の講演要旨（200字）の粘土科学への掲載に関して廃止の案が提示され、学会ホームページに掲載し、学会誌には掲載しないことで決定した。
 - ・宮脇委員より特集記事の扱いについて提案があり、原稿の取り扱いや執筆者の負担などを考慮し審議した結果、学会ホームページに特集号を掲載することでまず広報活動を進めることとなった。

以上